

2019 年 11 月 26 日

「第 36 回高峰カンファレンス」を開催しました。

第 36 回高峰カンファレンスは、筑波大学と共催で 2019 年 11 月 26 日(火)東京カンファレンスセンター品川にて開催されました。多くの大学ならびに研究機関の研究者など 180 名の参加者が集まりました。

当財団では毎年、生命科学研究の発展に寄与した研究者に対して、高峰記念第一三共賞を贈呈しています。

高峰カンファレンスは受賞者の業績を記念して開催され、学術交流の場を提供することで研究のさらなる振興と若手研究者の育成を図ることを目的としています。

今回は「Fusion of Biomedical and Physical/Informational Sciences in Neurobiology」という総合テーマのもと、記念講演とシンポジウムが行われました。

記念講演では、慶応大学 名誉教授 猿田 享男先生の座長のもと、今年で 17 回目となった高峰記念第一三共賞を受賞された筑波大学教授 WPI-IIIIS 機構長 柳沢 正史先生が登壇され、「Toward the mysteries of sleep」というテーマで基調講演をいただきました。



記念講演座長を務められた慶応大学名誉教授 猿田 享男先生



第 17 回高峰記念第一三共賞を受賞された
筑波大学教授 WPI-III S 機構長 柳沢 正史先生

引き続き行われたシンポジウムでは、柳沢 正史先生の座長のもと、脳情報通信融合研究センター 脳情報通信融合研究室 上席研究員 Ben Seymour 先生、国立遺伝学研究所 新分野創造センター 准教授 久保 郁先生、Philipps University of Marburg 教授 Henrik Bringmann 先生、東京大学 大学院総合文化研究科 広域科学専攻 准教授 加藤 英明先生にご講演をいただきました。



「An engineering approach to pain」について講演された Seymour 先生



「Function and connectivity of a visual circuit underlying optic flow processing in zebrafish」
について講演された久保先生



「Sleep: A worm's eye view」について講演された Bringmann 先生



「CryoEM analysis of the GPCR neurotensin receptor 1-G protein complex」について講演された加藤先生



会場の様子

※ 高峰カンファレンスのプログラムは [こちらから](#) ご覧いただけます。
(筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構 国際シンポジウム組織委員会発行)